

# 関連計画等の整理



## 1 関連計画等の一覧

### ➤ 世界

- (1) 国際連合 SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS (SDGs)
- (2) 国際連合決議 家族農業の10年(2019-2028)

### ➤ 国

- (3) 農林水産業・地域の活力創造プラン
- (4) 食料・農業・農村基本計画
- (5) 都市農業振興基本計画

### ➤ 千葉県

- (6) 千葉県農林水産業振興計画
- (7) 農業振興地域整備基本方針
- (8) 千葉県農業経営基盤の強化の促進に関する基本方針
- (9) 千葉農業事務所改良普及課 普及計画活動の概要(平成29年度八千代グループ)

### ➤ 八千代市

- (10) 八千代市第4次総合計画
- (11) 八千代市都市計画マスタープラン
- (12) 八千代市第3次産業振興ビジョン
- (13) 八千代市第2次環境保全計画
- (14) 八千代市まち・ひと・しごと創生総合戦略
- (15) 印旛沼流域かわまちづくり計画
- (16) 八千代市立八千代台東第二小学校跡地整備基本計画
- (17) やちよ男女共同参画プラン
- (18) 八千代市公共施設等総合管理計画
- (19) 八千代市谷津・里山保全計画
- (20) 八千代市緑の基本計画

### ➤ 八千代市農業協同組合

- (21) JA 八千代市第3次農業振興計画

## 2 各関連計画等の概要

### ➤ 世界

#### (1) 国際連合 SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS(SDGs)

概要
<p>SDGs（持続可能な開発目標）とは、2015年9月の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」にて記載された2030年までに持続可能でよりよい世界を目指す国際目標のこと。17のゴール・169のターゲットから構成され、「地球上の誰一人取り残さない」ことを誓っている。</p> <p>農林水産省ではSDGsと食品産業のつながりについて目標別に整理しており、その中では八千代市の農業に関する内容として、主に以下の内容が示されている。</p> <ol style="list-style-type: none"><li>1. 貧困をなくそう この目標は、2030年までに、世界中で極度の貧困にある人をなくすこと、様々な次元で貧困ラインを下回っている人の割合を半減させることなどを目指している。貧困とは、単に収入や資産がないことだけではなく、飢餓・栄養不良、教育や基本的サービスへのアクセス不足、社会的な差別や排除、意思決定からの除外なども含むものである。また、弱い立場にある人たちが、気象変動や災害などの影響をより強くうけることも防ぐ必要がある。</li><li>2. 飢餓をゼロに この目標は2030年までに、飢餓とあらゆる栄養不良に終止符を打ち、持続可能な食料生産を達成することを目指している。また、誰もが栄養のある食料を十分得られるようにするためには、環境と調和した持続可能な農業を推進し、生産者の所得を確保し、農業生産性を高めるための研究・投資を行う必要がある。</li><li>3. すべての人に健康と福祉を この目標は、母子保健を増進し、主要な感染症の流行に終止符を打ち、非感染性疾患と環境要因による疾患を減らすことを含めて、あらゆる年齢のすべての人々の健康と福祉を確保することを目指している。</li><li>4. 質の高い教育をみんなに この目標は、2030年までにすべての子供が平等に質の高い教育を受けられるようにすること、高等教育にアクセスできることを目指している。また、働きがいのある人間らしい仕事や企業に必要な技能を備えた若者・成人の割合を大幅に増加させることもねらっている。</li></ol>

5. ジェンダー平等を実現しよう

この目標は、女性が潜在能力を十分に発揮して活躍できるようにするため、教育や訓練の充実はもとより、有害な慣行を含め、女性と女兒に対するあらゆる形態の差別と暴力をなくすことを目指している。経済分野においても、あらゆるレベルの意思決定において女性の平等な参画とリーダーシップの機会の確保が求められている。

7. エネルギーをみんなに、そしてクリーンに

この目標は、国際協力の強化や、クリーンエネルギーに関するインフラと技術の拡大などを通じ、エネルギーへのアクセス拡大と、再生可能エネルギーの使用増大を推進しようとするものである。

8. 働きがいも経済成長も

継続的、包摂的かつ持続可能な経済成長は、グローバルな繁栄の前提条件である。この目標は、すべての人々に生産的な完全雇用とディーセント・ワーク（働きがいのある人間らしい仕事）の機会を提供しつつ、強制労働や人身取引、児童労働を根絶することをねらいとしている。

9. 産業と技術革新の基盤をつくろう

この目標は、国際的、国内的な金融、技術支援、研究とイノベーション、情報通信技術へのアクセス拡大を通じて安定した産業化を図ることを目指している。

11. 住み続けられる街づくりを

この目標は、コミュニティの絆と個人の安全を強化しつつ、イノベーションや雇用を刺激する形で、都市その他の人間居住地の再生と計画を図ることを目指したものである。

12. つくる責任 つかう責任

この目標は、環境に害を及ぼす物質の管理に関する具体的な政策や国際協定などの措置を通じ、持続可能な消費と生産のパターンを推進することを目指している。

13. 気候変動に具体的な対策を

気候変動は開発にとって最大の脅威であり、その広範な未曾有の影響は、最貧層と最も脆弱な立場にある人々に不当に重くのしかかっている。気候変動とその影響に対処するだけでなく、気候関連の危険や自然災害に対応できるレジリエンスを構築するためにも、緊急の対策が必要である。

15. 陸の豊かさを守ろう

この目標は、持続可能な形で森林を管理し、劣化した土地を回復し、砂漠化対策を成功させ、自然の生息地の劣化を食い止め、生物多様性の損失

に終止符を打つことに注力するものである。これらの取組をすべて組み合わせれば、森林その他の生態系に直接依存する人々の生計を守り、生物多様性を豊かにし、これら天然資源の恩恵を将来の世代に与えることに役立つと考えられる。

#### 17. パートナーシップで目標を達成しよう

持続可能な開発アジェンダを成功へと導くためには、政府、民間セクター、市民社会の間のパートナーシップが必要である。人間と地球を中心に据えた原則や価値観、共有されているビジョンと目標に根差すこのような包摂的パートナーシップは、グローバル、地域、国内、地方の各レベルで必要とされている。

## (2) 国際連合決議 家族農業の10年 (2019-2028)

### 概要

国際連合において、家族農業に関する具体的な役割等についての共通認識等を決議したもの。家族農業とは、国際連合では「農村の発展に不可欠である家族労働力により営まれている農業、林業、漁業、畜産業及び水産養殖業を含み、先進国・発展途上国双方において社会経済・環境・文化的に重要な役割を有している農業」とされている。(外務省仮訳より抜粋)

- ・ 牧畜従事者や家族農業者、特に農村地域における女性や若者を含む小規模土地所有者のサポートにおける、科学、技術、イノベーションと起業家精神が果たす重要な役割を認識し、それに関連し、イノベーション主導による開発や、大衆による起業やイノベーションへの支援の重要性を強調し、小規模土地所有者が自給農業から、自身の食料安全保障や栄養を向上させ、市場性のある余剰を生み出し、生産に価値を付加する助けとなる革新的、商業的な生産へ移行できる新たな持続可能な農業技術を歓迎。
- ・ 家族農業が、歴史的、文化的、自然遺産の普及と保全、伝統的な習慣や文化、農村地域における生物多様性の喪失を止めることや、生活条件の改善に深い関係があることを認識。
- ・ 極端な貧困層の8割近くが農村地域で暮らし、農業に従事していること、農村地域の開発と持続可能な農業に対する資源の投入や、小規模農家、特に女性農業者への支援が、とりわけ農民の生活を改善することによってすべての形態の貧困を終わらせる鍵となることも想起。
- ・ 世界で8億1千5百万人が依然として飢餓に苦しみ、世界のいくつかの地

域では依然として他の形態の栄養不良が深刻であることを認識するとともに、世界の食料生産額の8割以上を占める家族農業が果たす役割の重要性を強調。

- ・ ジェンダー平等の実現及び女性、少女のエンパワーメントが、SDGsの目標及びターゲット全体の進展に重大な貢献をすることを再確認し、農業と農村開発の推進、食料安全保障の改善、及び農村の貧困撲滅において、小規模土地所有者、女性農民、先住民女性、地域コミュニティの女性を含む農村女性と彼らの伝統的な知識の重要な役割と貢献を再確認し、またこの関連で、途上国における食料安全保障、栄養失調、起こりうる過剰な価格変動及び食料危機への短期的、長期的な対応の不可分の一体として、食料安全保障と栄養における女性の重要な役割が認識され、議論されることを確保するための農業政策及び戦略の見直しの重要性を強調。
- ・ 若者や障害を持つ人々を含めたすべての男女のための完全で生産的な雇用かつ、しかるべき仕事達成されることの必要性を強調し、家族農業に関するイノベーションを促進する政策及びプログラムが、農村地域において追加的または代替的な雇用と収入を生み出す機会を提供するよう、農村開発全体を促進する政策と密接に関わらなければならないことを認識。
- ・ 持続可能な開発目標の達成に向け、適切で費用対効果が高く、伝統的かつ革新的な解決策をスケールアップするために、経験と知識の交流支援につながる環境創出にとって不可欠である農家同士の協力を通じた家族農業間の協業のプラスの影響を認識。
- ・ 気候変動は、人間社会及び地球にとって緊急かつ潜在的に不可逆な脅威となり、世界中の農業に深刻な影響を及ぼしており、家族農業を支えることは気候変動に対処するだけでなく、食料生産を脅かすことのない方法でその有害な状況に適応し、気候変動への耐性や温室効果ガスの排出低減を促進する能力を高めることにつながることを意識。
- ・ 食料安全保障や栄養を向上させ、小規模土地所有者や女性農業者だけでなく、農業協同組合や農業者ネットワークに焦点を当てるための努力を強化する必要性や、グローバルパートナーシップを再活性化するよう各国を奨励する必要性を想起。

➤ 国

(3) 農林水産業・地域の活力創造プラン

概要
<p>農林水産業を産業として強くしていく政策（産業政策）と、多面的機能を発揮するための政策（地域政策）を両軸として、「強い農林水産業」と「美しく活力ある農山漁村」の実現に向け、総合的に施策を取りまとめた計画。</p> <p>八千代市の農業に関する内容として、主に以下の内容が示されている。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>◆ 国内外の需要の拡大への対応<ul style="list-style-type: none"><li>・ 地産地消・食育の推進</li><li>・ 加工業務用野菜の出荷量の増加に取り組む</li></ul></li><li>◆ 6次産業化等の推進<ul style="list-style-type: none"><li>・ 農商工連携、医福食農連携等の6次産業化の推進</li><li>・ スマート農業の推進、新たな品種や技術の開発・普及</li></ul></li><li>◆ 農地中間管理機構の活用等による農業構造の改革と生産コストの削減<ul style="list-style-type: none"><li>・ 担い手の農地利用が全農地の8割を占める農業構造の確立</li><li>・ 新規就農者の確保</li><li>法人雇用による就農の拡大、就農しようとする青年の研修及び経営の確立のための支援を実施</li><li>・ 法人経営体の増加</li><li>経営の法人化、集落営農の組織化・法人化に対する支援を実施</li></ul></li></ul>

(4) 食料・農業・農村基本計画

概要
<p>「農林水産業・地域の活力創造プラン」等で示された施策の方向やこれまでの施策の評価を踏まえつつ、農業や食品産業の成長産業化を促進するための産業政策と、多面的機能の維持・発揮を促進するための地域政策を車の両輪として進めるとの観点に立ち、食料・農業・農村施策の改革を進め、若者たちが希望を持てる「強い農業」と「美しく活力ある農村」の創出に向け、食料・農業・農村に関する総合的な施策を定めた計画。</p> <p>八千代市の農業に関する内容として、主に以下の内容が示されている。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>◆ 食料の安定供給の確保に関する施策<ul style="list-style-type: none"><li>・ 食育の推進と国産農産物の消費拡大</li><li>学校教育を始めとする様々な機会を活用した、幅広い世代に対する農林漁業体験の機会の提供を一体的に推進し、食や農林水産業への国民の理解を増進する。地域の農産物の学校給食への安定供給体制を構築</li></ul></li></ul>



するなど、関係府省が連携しつつ、地産地消を更に推進する。

◆ 農業の持続的な発展に関する施策

- ・ 力強く持続可能な農業構造の実現に向けた担い手の育成・確保  
農業経営の法人化を促進するため、大規模な家族農業経営や集落営農等を中心に、法人化のメリットや手続、法人経営に必要となる財務・労務管理に関する情報やノウハウ等の普及啓発を行う。  
農業の内外からの青年層の新規就農を促進する。
- ・ 農地中間管理機構のフル稼働による担い手への農地集積・集約化と農地の確保
- ・ 需要構造等の変化に対応した生産・供給体制の改革  
地域の特性に応じた農業生産基盤の整備を推進する。
- ・ コスト削減や高付加価値化を実現する生産・流通現場の技術革新等  
担い手の一層の規模拡大、省力化や低コスト化を図るため、スマート農業（ロボット技術や ICT を活用した超省力生産、高品質生産を実現する新たな農業）の実現に向けた取組、作業受託組織の受託作業の拡大、高性能機械や先端技術を駆使した作業受託組織のビジネスモデルの構築、ハローワークやシルバー人材センター等と連携した一時的な労働力（援農隊）の確保、育成等により、農作業の外部委託が円滑にできる環境を整備する。

気候変動に左右されにくい持続的な農業生産への転換を進めるため、高温等の影響の予測、回避、軽減策等をまとめた技術導入計画の策定を各産地に促すとともに、高温等の影響を回避又は軽減できる適応技術や品種の開発と普及を推進する。

◆ 農村の振興に関する施策

- ・ 深刻化、広域化する鳥獣被害への対応  
都市部の人材の活用も含めた捕獲従事者の育成・確保を図るとともに、ICT 等を用いた効果的かつ効率的な新技術の開発・普及や獣種の特성에応じた捕獲対策を推進するほか、捕獲した鳥獣の食肉利用など地域資源としての有効活用を推進する。
- ・ 多様な役割を果たす都市農業の振興  
新鮮で安全な農産物の都市住民への供給、身近な農作業体験や交流の場の提供、災害時の防災空間の確保、心安らぐ緑地空間の提供といった都市農業が有する多様な機能が将来にわたり十分に発揮されるよう、都市農業の持続的な振興を図るための取組を推進する。

(5) 都市農業振興基本計画

概要
<p>都市農業が果たしてきた農産物の供給機能に加えて、防災、景観形成、環境保全、農業体験・学習の場、農業や農業政策に対する理解の醸成等の多様な機能への評価が高まる一方で、農業従事者の高齢化や後継者不足が深刻化していることを鑑み、これまで土地所有者の意向に委ねられてきた都市農地の存続について、都市農業の担い手の確保、都市農業の用に供する土地の確保、農業振興施策の本格的展開、といった3つの方針から施策を取りまとめた計画。</p> <p>八千代市の農業に関する内容として、主に以下の内容が示されている。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>◆ 都市農業の担い手の確保<ul style="list-style-type: none"><li>・ 営農実績を有する地域の農業者の中から農地の借り手を探し出し、その者により農業を継続することが検討されるべき。</li><li>・ 地域の中で営農の意欲を有する青壮年を新規就農者として育成・確保し、この者を担い手とすることも考えられる。</li><li>・ 食品の製造、販売を行い、あるいは外食サービスを提供する地元の食品関連事業者と都市農業者との連携を促進し、こうした事業者が所有者から農地を借り受けて営農を行うことも視野に入れるべきである。</li><li>・ 農作業等に関心を持つ高齢者などの都市住民が農業技術を習得して営農ボランティアとして活動する取組や、地域コミュニティの維持・再生に取り組む団体等が管理者不在の農地を一定期間活用する取組も見られ、これらの者と農地とのマッチング等を通じて、補完的に農地として管理するといった取組も検討・活用されるべき。</li></ul></li><li>◆ 都市農業の用に供する土地の確保<ul style="list-style-type: none"><li>・ 人口減少等に対応したコンパクトシティの実現に取り組む中で、都市機能や居住の誘導を図るとともに、良好な生活環境の形成や、散発的かつ無秩序な宅地等の開発や低未利用地化を抑制する観点から、農地保全や都市農業振興に向けた施策の検討が必要</li><li>・ 都市農業の用に供される土地を新たに創出する観点も重要であり、低未利用地や老朽化した建物敷地等として利用されている土地を農地として復旧・活用することも検討が必要</li></ul></li></ul>

➤ 千葉県

(6) 千葉県農林水産業振興計画

概要
<p>「産地の戦略的な競争力強化と高収益型農林水産業への転換の促進による『農林水産王国・千葉の復活』と、緑豊かで活力ある農山漁村づくりの推進による『農山漁村の活性化』の実現」という目標を掲げ、その実現に向けた施策を総合的にまとめた計画。</p> <p>八千代市の農業に関する内容として、主に以下の内容が示されている。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>◆ 販売力の強化<ul style="list-style-type: none"><li>・ 販売促進 県産農林水産物の効果的な魅力発信 農林水産業の経営の多角化を進める6次産業化の推進 生産から食卓まで食のつながりを意識した食育の推進</li></ul></li><li>◆ 農林水産業の成長力の強化<ul style="list-style-type: none"><li>・ 担い手育成 担い手の確保・育成に対する取組の充実・強化 企業的経営体・法人等の育成</li><li>・ 生産基盤の強化・充実 競争力を高める基盤整備の推進 耕作放棄地を活用した農作物の生産拡大等の支援と優良農地の確保</li><li>・ 農林水産業のスマート化 機械化や施設化による効率化の推進 ICT等を活用した技術の普及促進</li></ul></li><li>◆ 地域の特徴を生かした農山漁村の振興・活性化<ul style="list-style-type: none"><li>・ 耕作放棄地・有害鳥獣対策 耕作放棄地を活用した農作物の生産拡大等の支援と優良農地の確保 捕獲したイノシシなど獣肉の活用普及</li><li>・ 都市農業の振興 産業としての都市農業の持続的な発展 多様な機能の発揮による「都市農業」への理解の醸成及び都市農地の保全</li></ul></li></ul>

(7) 農業振興地域整備基本方針

概要
<p>千葉県における農用地等の確保についての取組方向を定めた計画。 八千代市の農業に関する内容として、主に以下の内容が示されている。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>◆ 都市農業地域：千葉・東葛飾農業事務所管内の方向性 消費者との距離の近さを生かした農産物の直売活動の促進や観光・体験型農業の展開等により、その保全を図る。</li><li>◆ 農業を担うべき者の育成及び確保 認定農業者育成、経営指導、担い手組織の育成、農業経営の法人化の推進、新規就農者への支援</li></ul>

(8) 千葉県農業経営基盤の強化の促進に関する基本方針

概要
<p>生産力強化と担い手づくりの推進、千葉の魅力为全国・海外に発信、緑豊かで活力ある農村づくりの推進という3つの方向性をもって魅力ある力強い千葉県農業を展開するべく各地域における将来像、施策を取りまとめたもの。 八千代市の農業に関する内容として、主に以下の内容が示されている。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>◆ 都市農業地域：主として千葉・東葛飾農業事務所管内<ul style="list-style-type: none"><li>・ 生産者の顔が見える「地産地消」の取組がより一層進展。</li><li>・ 産地ブランドの維持・強化を目指して、新しい品種や栽培技術の開発とともに、土づくりを基本とする高品質の野菜や果樹の生産が進められる。</li><li>・ 減農薬栽培や農薬飛散防止対策など、環境に配慮した取組も進展。</li><li>・ 「体験農園」、子供たちが農作業を体験する「学童農園」など、県民に農業と触れ合う機会を提供することにより、都市住民と生産者との交流の活性化や農業への理解促進がさらに進展。</li></ul></li></ul>

(9) 千葉農業事務所改良普及課 普及計画活動の概要 (平成 29 年度八千代グループ)

概要
<p>地域ごとに普及計画活動の課題と取組対象を取りまとめたもの。 八千代市の農業に関する内容として、主に以下の内容が示されている。</p> <p>(八千代グループ)</p> <p>◆ 持続性のある園芸産地づくり</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 経営規模拡大による春夏にんじん産地の維持→JA 八千代市人参部会 28 戸</li><li>・ 主要な担い手を核としたなし産地の維持→八千代市梨業組合 66 戸 (主要な担い手：研究部 23 戸)</li><li>・ いちごを基幹品目とした経営の安定→JA 八千代市施設野菜連合会いちご生産者 9 戸</li></ul> <p>◆ 農業基盤を守る地域営農の仕組みと経営体の育成</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 水稲経営体の規模拡大と営農組織による農地維持 →八千代市水稲主業経営体 2 組織 ((農)島田 12 戸・(農)米本 9 戸) →桑納川沿岸土地改良区 1 組織</li></ul> <p>◆ 地域農業を支える高い経営者資質を持った畜産経営体の体質強化</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 水田生産飼料等の利用拡大による飼料費低減→市内畜産農家 18 戸 (酪農 15 戸・肉牛 1 戸・養豚 2 戸)</li></ul> <p>(千葉・習志野グループ、市原グループ、八千代グループ)</p> <p>◆ 経営者意識を持った多様な担い手の育成</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 新規就農者の営農技術向上と就農定着 →農業経営体育成セミナー 29 名 (基本 14 名・専門 8 名・総合 7 名)</li><li>・ 共同経営者としての能力向上 →女性農業者団体 6 団体 (85 名)</li><li>・ 農産加工による起業経営体の育成 →起業経営体 48 経営体 (うち農産加工によるもの 47 経営体)</li><li>・ 酪農後継者等の飼養管理技術・経営管理能力の向上 →若手酪農研究組織 3 組織 (30 戸)</li></ul>

➤ 八千代市

(10) 八千代市第4次総合計画

概要
<p>長期的な視点から八千代市のまちづくりを進める上での、基本理念と将来像を示すとともに、まちづくりの枠組みとなる将来人口、土地利用の方針を明らかにし、将来像の実現に向けた施策の大綱を示す基本構想と、そこに掲げる将来像の実現に向けて取り組むべき施策を体系的に示した基本計画、基本計画において定められた基本的な施策を効果的に実施するための具体的な事業を明らかにした実施計画とで構成された計画。</p> <p>八千代市の農業に関する内容として、主に以下の内容が示されている。</p> <p>◆ 目標値</p> <ul style="list-style-type: none"><li>(1) 農業生産基盤の整備と利活用 水田再基盤整備面積 349ha</li><li>(2) 農業経営体の育成と支援 認定農業者数 96人 家族経営協定の締結件数 37件</li><li>(3) 高付加価値型農業の実現 地場農産物を使って加工品を生産した生産者数 87件</li><li>(4) 人と環境にやさしい農業の推進 エコファーマー戸数 114件</li><li>(5) 市民とふれあう農業の推進 体験農園利用者数 24,000人</li></ul> <p>◆ 具体的な施策等</p> <ul style="list-style-type: none"><li>(1) 農業生産基盤の整備と利活用 優良農地の保全と効率的な利用、ほ場の整備、農業施設の整備・維持に対する支援</li><li>(2) 農業経営体の育成と支援 農業経営体の育成と農業経営の合理化、多様な担い手の育成</li><li>(3) 高付加価値型農業の実現 特産物の開発と地場農産物加工の推進、園芸振興と果樹振興、農産物の流通の多様化</li><li>(4) 人と環境にやさしい農業の推進 土づくりと減化学肥料・減農薬の推進 環境保全型農業の普及・推進、畜産環境の整備</li><li>(5) 市民とふれあう農業の推進 市民と農家との交流促進、体験型農業の推進</li></ul>

(11) 八千代市都市マスタープラン

概要
<p>八千代市第4次総合計画の基本構想に定める将来都市像の実現を目標に掲げた計画。基本理念の一つとして「近代的農業と住宅が調和した田園都市」を設定している。</p> <p>八千代市の農業に関する内容として、主に以下の内容が示されている。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>◆ 市街化調整区域 農産物の生産の場として農業を中心とした土地利用を図り、優良農地の確保などに努めるとともに、南部市街地と対をなす自然を満喫できる場として、維持保全していく</li><li>◆ 生産緑地の保全などの方針 市街化区域内の農地などのうち、良好な生活環境が確保でき、さらに、公害や災害の防止などに効用があるものを生産緑地として定めている。これらの緑地は都市生活に潤いをもたらすなど、都市の魅力の向上につながることから、将来的には公共用地などとして活用していくことも考えられる。このことから、今後も可能な限り保全するよう所有者などに働きかけていく。</li><li>◆ 緑の拠点 やちよふれあいの農業の郷を含めた市民のふれあいネットワークゾーンの充実を図り、市街化調整区域内において、「ふるさと八千代」を体験し、家族や友人と楽しく過ごせる場づくりを目指す。</li><li>◆ 自然・田園景観 水田と台地部の境界となる斜面緑地あるいは河川沿いや谷津田などには、水生植物や昆虫などが生息しており、「八千代市谷津・里山保全計画」で保全地域に設定するなど市民や行政、土地所有者などが連携・協働して保全に努める。</li><li>◆ 下水道整備の方針 市街化調整区域について、高度処理型浄化槽による処理を促進し、雑排水の農業用水や河川への流入を抑制し、併せて公共用水域の水質の保全に努める。</li></ul>

(12) 八千代市第3次産業振興ビジョン

概要
<p>八千代市第4次総合計画で目標とする「快適な生活環境とやすらぎに満ちた都市八千代」を実現するための6つの柱の一つ「産業活力都市をめざして」の商工業・農業・観光にかかる振興ビジョンとして作成するもの。</p> <p>農業に関しては、農業従事者・農地の減少、農産品として八千代ブランドがない、農業・工業・商業・観光の連携で特産品の商品化、安全・安心の農産物の生産、市街地住民と農村住民との交流の場といった問題や課題を踏まえ、「Safety and Fresh（安全で新鮮）農業」、「食べる人を第一に安全で新鮮な農作物を提供」という方向性が示されている。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>◆ 活気ある農家を目指して<ul style="list-style-type: none"><li>・ 収益性の高い作物の開拓</li></ul></li><li>◆ 農業従事者の育成<ul style="list-style-type: none"><li>・ 後継者を求める農家と意欲的な人材のマッチング</li></ul></li><li>◆ 安全・安心の農産物<ul style="list-style-type: none"><li>・ ちばエコ農産物の認証</li><li>・ エコファーマー認定へ取組推進</li></ul></li><li>◆ 八千代発のブランド品を全国へ<ul style="list-style-type: none"><li>・ ブランド化のための体制づくりを検討</li></ul></li><li>◆ 農・商・工・観の連携<ul style="list-style-type: none"><li>・ 特産品等の開発、商品化のための組織づくり</li></ul></li><li>◆ 農業振興と市民の交流の場づくり<ul style="list-style-type: none"><li>・ 耕作放棄地の活用</li><li>・ 酪農への理解の促進</li></ul></li></ul>

(13) 八千代市第2次環境保全計画

概要
<p>国や県の環境基本計画をはじめ環境保全に係る各種計画との連携を図り、環境行政を総合的に推進する計画</p> <p>八千代市の農業に関する内容として、主に以下の内容が示されている。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>◆ 水循環の確保：水源かん養 谷津・里山、農地が有する水源かん養機能の増進</li><li>◆ 大気汚染状況の的確な監視：悪臭対策の推進 農業に起因する悪臭については、防止対策を指導していく</li><li>◆ 水質汚濁対策の推進：自然系からの汚濁負荷の軽減策の推進</li></ul>



<p>農地で使用する化学肥料・農薬の適正利用を推進する</p> <p>◆ 土壌・地下水汚染対策の推進、地盤沈下の防止：環境保全型農業の推進 硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素による地下水汚染に関しては、過剰な施肥が原因とされており、適正な肥料を指導するとともに、農薬の低減を一体的に行う環境保全型農業を推進する</p> <p>◆ 緑化の推進と農地の保全：農地の保全</p> <p>(1) 農地の有効活用</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>住宅地や工場用地などの整備に際しては、農地転用許可制度の適正な運用により、計画的な土地利用の確保を図る</li> <li>市街化区域内における一定規模以上の農地については、その緑地機能を評価し、生産緑地地区として指定することにより良好な都市環境を形成する</li> </ul> <p>(2) 環境保全型農業の普及</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>土づくりと化学肥料・農薬の低減を一体的に行う農業を推進することで、持続性の高い農業生産活動に向けた取組を促進する。また、環境保全に配慮した農業生産者をエコファーマーとして認定するなどの支援を行う</li> <li>家畜ふん尿の有効利用などによる堆肥などを活用した土づくりを進め、環境への負荷の少ない農業を推進する</li> </ul>
--

(14) 八千代市まち・ひと・しごと創生総合戦略

<p>概要</p> <p>まち・ひと・しごと創生法（平成 26 年法律第 136 号）に基づき、八千代市における人口動向・将来人口推計の分析や中長期の将来展望を示す「八千代市人口ビジョン」を踏まえ、今後人口減少対策として重点的に取り組むべき政策目標・施策を取りまとめたもの。</p> <p>八千代市の農業に関する内容として、主に以下の内容が示されている。</p> <p>◆ 農業の活性化 農業後継者等の育成・支援 やちよふれあいの農業の郷を拠点とした地場産業の活性化と農業体験等</p>
---

(15) 印旛沼流域かわまちづくり計画

<p>概要</p> <p>新川を中心に船着き場や一里塚(トイレなど)等の整備を進め、アクティビティを組み合わせた、新川の総合的な利活用を推進するべく、施設整備や利活用</p>
---

の方向性を定めた計画。

八千代市の農業に関する内容として、主に以下の内容が示されている。

<新川水辺拠点(道の駅やちよ周辺)> (構想案)

➤ 有効活用および維持管理

防災時

緊急船着場、水防活動上の拠点

日常時

国道 16 号沿いの道の駅やちよと連携し、新川の水辺の賑わいを創出する

水辺の拠点。印旛沼とサイクリングや舟運等の連携を図り、印旛沼周辺の

活性化となる水辺のアクティビティの拠点

➤ 広域展開イメージ

八千代市において水辺拠点を構想する「道の駅やちよ 八千代ふるさとステーション」は、市を縦断する国道 16 号に隣接しており、また新川の対岸には、ペDESTリアンデッキで往来が可能な、「やちよ農業交流センター」が配置されている。ここに水辺拠点を整備することにより、国道 16 号と連携する広域な道路ネットワークと河川の結節点が誕生する。

(16) 八千代市立八千代台東第二小学校跡地整備基本計画

概要
八千代市立八千代台東第二小学校の跡地について、整備の方向性等を取りまとめた計画。跡地に導入すべき機能の一つとして農園が選定された。
◆ 農園
平時：貸し農園
災害時：食材の確保
災害時には食材の確保ができるよう、あらかじめ取り決めた上での貸し農園として、選定した。

(17) やちよ男女共同参画プラン

概要
八千代市の男女共同参画社会づくりの現状を勘案し、男女共同参画施策を総合的かつ計画的に取り組むべき目標や施策の指針として策定するもの
八千代市の農業に関する内容として、主に以下の内容が示されている。
◆ 農業に従事する女性の地位向上のための意識づくり
・ 家族経営協定の締結促進

<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 講座の開催</li> <li>・ 女性リーダーの育成</li> <li>・ 農業部門における政策や方針決定の場への女性の登用促進</li> </ul> <p>◆ 個別のニーズに配慮した母子保健の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 食育の取組</li> </ul>
--

(18) 八千代市公共施設等総合管理計画

<p>概要</p> <p>公共サービス・施設等の規模の適正化、公共施設等の効率的な施設管理及び有効活用による公共施設等の全体最適化を図ることで真に必要とされる公共サービスの提供を維持・確保していくための計画。</p> <p>八千代市の農業に関する内容として、主に以下の内容が示されている。</p> <p>◆ 八千代ふるさとステーション・やちよ農業交流センター</p> <p>(1) 現況・課題</p> <p>設備の老朽化、研修室等の稼働率が低いものもある</p> <p>(2) 方針</p> <p>集客力を活かした施設のさらなる有効活用の可能性や、より多くの市民が利用しやすいサービス提供、施設運営のあり方を検討し、必要に応じて、提供するサービス内容等の変更について指定管理者と協議する。</p>
--

(19) 八千代市谷津・里山保全計画

<p>概要</p> <p>谷津・里山が保持する多面的な機能を持続的に保全・再生し、次世代に引き継ぐことにより、都市と農村が共生し交流する八千代市らしいまちづくりを目指すことを目的に、谷津・里山の保全に係る施策を取りまとめた計画。</p> <p>八千代市の農業に関する内容として、主に以下の内容が示されている。</p> <p>(1) 谷津・里山の活用</p> <p>グリーンツーリズム等の推進</p>
---

(20) 八千代市緑の基本計画

<p>概要</p> <p>緑豊かなまちづくりの推進を図ることを目的とし、将来の緑地の保全や都市緑化の推進、公園緑地の適切な配置や維持管理、生物多様性の保全など、緑に関する様々な施策を体系的に取りまとめた計画。</p>
--

八千代市の農業に関する内容として、主に以下の内容が示されている。

◆ 基本方針1 緑の保全

(1) 谷津・里山など八千代市の特徴となる豊かな緑を守る

① 農地の保全

- ・ 郊外の農地の保全
- ・ 農業体験の推進

(2) 水辺を守る

① 水循環の確保

- ・ 重要な水源かん養地である谷津・里山及び水田の保全を図る

◆ 重点施策3 市街地内農地を守り・活かす（生産緑地地区内の緑地の保全の方針）

(1) 重点施策

- ・ 本計画期間中に多くの生産緑地地区が指定後30年を迎えることから、所有者の意向に配慮しつつ、営農を継続すべき生産緑地地区については、特定生産緑地への指定を進める。また、生産緑地地区の面積要件引下げについても検討する。
- ・ 所有者の意向に配慮しつつ、市街地内という立地を活かした農産物等加工施設、農産物等直売所、農家レストランなどの設置など、都市農業に親しむ空間づくりに取り組むものとする。
- ・ 都市住民が農業を体験・実践できる場として活用するなど、都市農業の新たな展開を図る場として、法や制度改正の動向を踏まえつつ生産緑地地区の流動化や活用の仕組みづくりに取り組むものとする。

➤ 八千代市農業協同組合

(21) JA 八千代市第3次農業振興計画

概要
<p>八千代市農業の持続的発展を目指し、農業生産の維持拡大、農業所得増大と豊かな農業の創生、農業と地域住民の相互理解の増進、農業からの地域活性化をスローガンに農業協同組合としての実施事項を取りまとめた計画。</p> <p>主に以下の内容に取り組むとしている。</p> <ol style="list-style-type: none"><li>1. 担い手の支援<ol style="list-style-type: none"><li>① 各組合員に合った基幹品目の提案や、市場出荷と直売出荷の出荷比率の見直しなどの提案（ベストバランスの提案）</li><li>② 担い手に対する個別経営相談や営農業務の充実</li><li>③ やる気のある担い手に対する耕作面積の拡大支援</li><li>④ 新規就農者支援</li><li>⑤ 労働力確保に向けた取組と労働環境改善</li><li>⑥ トレーサビリティーの指導</li><li>⑦ 肥料・農薬・生産資材の銘柄集約を行い生産コストの低減</li><li>⑧ 購買品の円滑供給を行うため、在庫管理と流通方法の見直し</li></ol></li><li>2. 農産物販売強化<ol style="list-style-type: none"><li>① 出荷時の運搬代行業務を検討</li><li>② 優良産地としてのさらなる付加価値を求めた多用途予冷庫建設の検討</li><li>③ 近隣スーパーや小売店に向けて地元農産物の売り込み</li><li>④ グリーンハウス販売強化と買取販売実施検討</li></ol></li><li>3. 地域交流と地域貢献活動<ol style="list-style-type: none"><li>① 地域住民（消費者）と農業の共生</li><li>② 農業の難易性や重要性をアピール</li></ol></li><li>4. 営農・指導・販売・購買担当職員のスキルアップ<ol style="list-style-type: none"><li>① 営農指導員資格者・営農相談員資格者の増強</li><li>② 営農指導員の活動強化</li><li>③ 有利販売を目指す販売知識を持った販売担当職員の育成</li><li>④ 購買担当職員が肥料・農薬・生産資材の知識を高めて、購買事業の円滑化を図る</li></ol></li></ol>